

「子供たちが明るくなったね」

7日間にわたって被災地を訪ね、仮設の皆さんや子供たちに寄り添って“心のケア”活動をしてきた第3次支援チーム。現地で何を感じ、どんな印象もあったのか。その体験を今後の活動にどう生かしていったらいいのか。参加者6人に話し合ってもらいました。（写真＝7月25日、支援活動の感想を語る皆さん）

座談会

【出席者】

三浦捷治	内田たみ子
波多野武郎	海野龍英
林弥生	増金スミ子
阿部和子	司会 芦田義和
（まとめ・南形徹）	



また会えて…ありがとう

——東北支援、お疲れさまでした。初参加の印象から聞かせてください。

三浦 女川町や名取市閑上（ゆりあげ）地区など被災地は見渡す限りガレキの山。逃げる余地はなかったのかなあ、と胸が詰まって言葉にならなかった。公演の間は大人も子供も笑顔で楽しんでくれ、やりがいがあった。

阿部 女川で横倒しになったままのビルを見てびっくりした。閑上地区では、津波にさらわれ何も無い荒地に雑草が生い茂っていた。1年経って少しずつ風化しているんだなあ、と。「千の風になって…」の歌を思い出してしまいました。

林 畑がたくさんあるのに作物がない。小さなガレキが埋まっていて取り除かないと使えないのだと聞いた。大自然は生きている、とつくづく感じた。チームの皆さんがとても積極的で、やる気満々。いい公演ができました。

——2、3回目の方の感想は。

増金 「あっ、玉すだれのおばちゃん。また来てくれたの？」と声がかかり、抱き合って再会を喜びあった。仮設住宅ではどの家にも花が一杯植えてあって、感激しました。少しは皆さんの心も落ち着いてきたのかな、と感じた。

内田 昨秋、お目にかかった時は明るかったお婆さんが、今回は「まあまあ、元気でおります」と、なんだか表情が寂しそうでした。弱られたのかな。

波多野 私の三味線を見て、「覚えてますよ」と言われ嬉しかったです。全体的に皆さんの表情、特に子供たちは明るくなっているように思った。

——公演はスムーズにうまくいきましたか。

内田 持ち時間が短すぎて、子供たちと充分遊べなかったのが残念。ぶんぶんゴマに色を塗ってもらうこともできなかった。（一同うなづく）

阿部 錢太鼓も、もう少し体験してもらおう時間があればよかったなあ、と思いました。

三浦 やさしいマジックを子供たちと一緒にやりたかったが、見せるだけになってしまった。時間枠が決まっているなら、日によってマジックを休むとか、昔遊びの種類を減らすとか、工夫が必要だったのではないかな。

増金 逆に私は1人だけのパフォーマンスなので、時間がもったいない気がした。多人数でやる南京玉すだれも考えないと。

事前の楽器練習よかった

海野 楽器や歌は、10回近くも事前練習をやった甲斐があったようですね。音合わせがスムーズにきました。

波多野 そうですね。三味線とハーモニカ、歌、民謡、錢太鼓すべてに練習の成果がでていました。

内田 メンバーには昔遊びを知らない人もいたが、皆が事前準備に協力してくれてありがたかった。

林 どの会場でも、子供たちが楽しそうに錢太鼓を振って喜んでくれた。すぐ覚えてしまうのですねえ。何よりの収穫でした。

阿部 そう、元気な笑顔を見られただけで行った甲斐がありましたね。（一同うなづく）

海野 清水の仮設では、ペタンクの交流試合をやった。道具は年末に〈わ〉から贈ったものです。15人が集まってくれ、楽しい時間が過ごせました。

ドレミちゃんとの共演は

——振興協会チームとの共演は2回目。今回は歌手と風船アートの女性、体操のインストラクターが同行しましたが。

海野 ピエロ姿のドレミちゃん（風船アート）は子供たちに大もてだった。花城アリアもすばらしい声だったが、子供たち相手には選曲を少し考えてほしかったですね。〈わ〉のプログラムと分けてやった方がよかったかもしれない。

三浦 ラジオ体操は余分だった気がする。やるならもっとキビキビしなくちゃ。オープニングにしては面白くなかったし、子供たちの反応も今いちだった。

内田 協会チームとの共演は、面白い試みだと思うが、時間配分とか、プログラムについては工夫が必要でしょうね。（一同うなずく）



——6泊7日はかなり強行軍でしたね。

海野 同じホテルに連泊できたのはよかったが、男性は6人部屋、女性はツイン。大浴場はまだ閉鎖中で、入浴は車で浴場まで行かなければならず、その点は不便でした。

増金 ホテルの食事は昨年よりよくなっていた。お昼の弁当もコンビニから注文弁当に格上げになり、日替わりメニューになってよかった。

——石巻市長との面談や仙台の豊齢学園訪問はどうでしたか。

海野 どちらも時間が少なく、突っ込んだ話ができなかった。豊齢学園では大歓迎してくれただけに残念だった。連携して復興活動しようとの共通認識はできたので、今後具体策を詰めたい。

三浦 石巻市長からはごみ処理に2年以上はかかる、など現状を聞くことができた。自治体側からの話は参考になった。

——今後の支援活動について。

波多野 昨年は見せることが主体だったが、今回は〈一緒に遊び、体験してもらう〉プログラムにし

た。このやり方を続けてほしい。女川、石巻などとのパイプをもっと太くすることも必要ですね。

阿部 体験といっても、先方のニーズもあるし、その辺をどうするか。シルバーである私たちが出来ることは何か。具体的つかむのは大変ですね。

体験重視のプログラムに

三浦 あわただしい公演で、子供たちは満足してくれたのかな。体験時間を多くとるようにすべきだったと思う。

増金 私もそう思います。じっくり子供たちと遊べるようなプログラムにしてほしい。

内田 メンバー公募はよかった。多様な集まりだったが、事前練習などみんな意欲満々で、チームワークはすばらしかった。

海野 復興センターや自治会に「どんな支援を望まれますか」と聞いても、はっきりした答えが返ってこない。豊齢学園と連携するにもその点がポイントになりますね。

——オールしあわせの村・オールKSCという観点から、振興協会とは今後も協力して支援活動をやっていると思っています。皆さんもぜひサポートをお願いします。本日はありがとうございました。

（写真一名取が丘児童館で銭太鼓を体験する子供たち）

協会チームの感想は

協会チームはどういう印象をもったのか、リーダーの佃孝司氏に聞いてみた。

会場の子供たちの表情が昨年よりうんと明るかったので安心した。共演でプログラムが多彩になってよかったと思う。花城アリア（歌手）も、ドレミちゃん（風船アート）も「KSCの皆さんと一緒にやれて楽しかった。昔遊びもいい経験をさせてもらいました」と言っていた。プログラムで〈わ〉との時間配分は特に気にならなかった。短いなら短いなりに喜んでもらえたと思うし、子供たちも退屈しなかったのではないかな。

協会単独でやった荒井仮設住宅（仙台市）では、ヅカ出身の花城さんが真っ赤な舞台衣装でドレスアップ。会場がぱっと明るくなった。

「すみれの花咲くころ」「慕情」「夜来香」などプロの美声をたっぷり披露、会場を魅了した。最後の「ふるさと」は、おじさんも、おばさんも涙をぼろぼろ流しながら一緒に歌ってくれた。私たちスタッフも、もらい泣きでしたね。